

令和7年度 ほっとハウス地域推進連会議 議事録

日 時	令和 7 年 11 月 13 日（木） 10：30～12：10		作成者	溝上友喜
場 所	蓮花の会 理事長室		作成日	令和 7 年 11 月 14 日
参加者	司会進行	溝上友喜		
	参加者 松下博文（地域代表） 伊東哲也（白石町社会福祉協議会） 松尾ひとみ（就労継続支援 B 型事業所 えん代表） 川崎一司（保護者代表） I 氏（利用者代表） 溝上友喜（事務局） 今福和絵（サービス管理責任者）			
会議内容	① 自己紹介 ② サービスの概要と利用者の日常生活について ③ 虐待・事故・苦情の報告 ④ 施設見学 議事進行の記録 ① 委員より自己紹介 ② サービスの概要と利用者の日常生活について資料に沿って説明を行った。 ・拠点の場所について ・各グループホームの平面図（居室、ショートステイの部屋）について ・利用料金について ・平日、休日の 1 日のスケジュールについて ・余暇活動について ・サービスについて 金銭管理の方法、職員配置について、食事提供について ・利用者、保護者からのよくある質問について 質疑応答 ○松尾委員：利用者さんについての情報共有はどうしているか。 今福：職員数も多いため申し送りノートを活用している。 松尾委員：利用者さん同士のトラブルはあるか。 今福：利用者さん同士というよりもショートステイ利用者とのトラブルが見受けられたことはある。職員は 2 名体制（福田の方は夜勤帯のみ 1 名体制）を取っているため、リビングなどに職員が居ないという状況はほとんどない。何かしらのトラブルが発生する前に介入している。 ○伊東委員：感染症対策はどのようにしているのか。 溝上：予防的な観点からは週末に自宅外泊される方もいるため、家族間での			

体調不良者がいなかったかなどは帰所の際に伺っている。グループホーム利用者に感染者が出た場合は、療養室にて過ごしてもらうようにしている。しかし、障害の特性上、療養室に留まることができない利用者もいらっしゃるので、その際には本体施設の２階にて療養していただいている。

○松下委員：利用者の年代構成はどうか

溝上：19歳から64歳の方まで利用されている。

○伊東委員：利用者さんはどのように過ごしているのか

平日、帰所後は入浴されたり、自室にてタブレットやテレビを見て過ごされる方が多い。新拓のグループホームでは障害の程度が思い方が多く、自室で過ごされるよりも、リビングで他の職員と関わりながら過ごされている。就寝される時間も安定しており、夜間帯に覚醒している方はほぼいない。

○松下委員：利用者さんは自分で家具など持ってこられるのか。

溝上：テレビや冷蔵庫など嗜好品の制限はない。各部屋に常設しているのはベッド、クローゼットであり、その他の物は入所時に持ち込まれている。

③ 虐待・事故・苦情の報告

溝上：令和7年8月30日にショートステイの利用者に対し、誘導を目的に支援をしていた職員の対応が不適切だとの通報を受け、令和7年9月1日に虐待防止委員会を開催し白石町に報告を行った。令和7年9月25日に白石町より聴き取りが行われた。令和7年11月4日白石町より今回の支援については不適切であり虐待と判断された。推進委員には今後の改善計画について説明を行った。

④ 施設見学

＜グループホームほっとハウス新拓の見学の様子＞



＜グループホームほっとハウス福田の見学の様子＞

